

奈良・平城京跡右京二条三坊三坪

1 所在地 奈良市菅原町

2 調査期間 一九九九年(平11)八月～十二月

3 発掘機関 奈良市教育委員会

4 調査担当者 立石堅志・久保清子

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、一九八八年度から継続して実施している区画整理事業に伴う発掘調査の一つで、平城京第四三―三三三調査として実施したものである。調査地は右京二条三坊三坪の北西隅で、二条条間路に面した位置にあたる。調査面積は一〇六〇㎡である。



(奈良)

検出した遺構は二条条間路南側溝・坪内道路・掘立柱建物・堀・井戸・土坑・溝である。これらの遺構の

時期は、奈良時代から平安時代前半と、平安時代後半以降とに大別できる。

木簡は、井戸SE五二八の枿材採取穴から一点出土した。共伴遺物には、八世紀中頃から九世紀初頭の土師器・須恵器・緑釉陶器・製塩土器、軒平瓦六七三C、人形がある。その他、墨書土器には、SE五二五から出土した「主帳」(須恵器皿B底部外面)、SE五三〇から出土した「家」(須恵器杯B底部外面)などがある。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「召日置得麻呂」

(84)×26×3 019

下部は欠損する。木簡に書かれている人物を召喚する召文の断簡と考える。なお、釈読にあたっては、奈良文化財研究所史料調査室の方々のご教示を得た。

9 関係文献

奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成十一年度』(二〇〇一年)

(久保清子)

